

「五戸川稚魚放流会」

令和3年7月9日(金)五戸川において、イワナとヤマメの稚魚放流会が行われました。主催する団体は「魚にやさしい五戸川の環境づくりを進める会」で、五戸川に設置されている頭首工に魚道が設置されたのをきっかけに発足しました。この団体は、自然環境の保全活動などを根付かせるため、環境公共の活動として放流会を毎年行っており、今年で14回目の開催となりました。

当日は3つの時間帯を設け、五戸町のみゆき保育園、江渡幼稚園、くらいしこども園の園児46名が参加しました。

はじめに、パネルを使って環境公共について勉強をしました。

いつも使っている水は、どこからくるの？

水がきれいになるには、どうしたらいいの？

川を指さして水が流れていることを示す園児や、そういえば…と考えるような様子の園児もいました。



蒸し暑い中ががんばってお話を聞くことができました！

いよいよ待ちに待った放流です。カラフルなバケツを持った園児たちの笑顔が光りました。



「元気に育ってね〜」「大きくなってね〜」

稚魚はあわせて 4,000 匹で、中市河川公園と川原町の河川敷の2カ所から放流しました。



成魚観察の様子

プールの中には、イワナの成魚が用意され、稚魚と成魚の違いを観察しました。触ってみてねと声をかけると一層顔を明るくしていた様子が印象的です。大人からの注意がなくても優しく扱い、観察することができていました。生き物を大切にする気持ちで参加することは、環境公共の活動への一歩だと感じました。この放流会で、自分たちが携わった環境公共活動とは何か、さらに興味を持つきっかけになってほしいと思います。